

2021.9.12

説教「こんな無駄遣いをして」松村光司

聖書 マルコ福音書 14章 3～9節

14:3 イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンの家において、食事の席に着いておられたとき、一人の女が、純粋で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた。4 そこにいた人の何人かが、憤慨して互いに言った。「なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか。5 この香油は三百デナリオン以上に売って、貧しい人々に施すことができたのに。」そして、彼女を厳しくとがめた。6 イエスは言われた。「するままにさせておきなさい。なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。7 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではない。8 この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた。9 はっきり言うておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

○なぜ女は油を注ぐのか

みなさんおはようございます。今日もともに礼拝できることを感謝します。

今日の物語は、イエス様がベタニアの村にあったシモンの家で食事をする場面でした。シモンは重い皮膚病の人でした。そこで一人の女が高価な香油を持ってきて、その壺を壊して、イエス様に注ぎかけたのです。甘い香りが部屋中に満ちていくとき、そこにいた他の人たちがこの女を批判して言うのです「なんと無駄遣いをしたのか」。

なぜこの女性は高価な油をイエス様に注いだのでしょうか。8節にはイエス様の言葉があります。

「8 この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた」。

私たちはこれを読んで、なんとなく女が油を注いだ理由を分かった気になっていないでしょうか。でもこの言葉は女性の油注ぎを解釈した言葉です。なぜこの女性がそうしたのかの理由ではないのです。どうして彼女が、イエス様はこの後、十字架に掛かって死ぬと想像できたでしょうか。それは難しいと思うのです。

聖書には、なぜ彼女は高価な香油をこんな風に使ったのか。はっきりとはその理由が書かれていません。でも、その理由をどう想像するかは、この物語を考えたときにとっても大切なことだと思います。みなさんはどんな風に想像するでしょうか。それを今日は考えてみたいのです。

○油を滴らせる祝福

そもそもこの女性がしたことは、いったいどういう意味

だったのか。油を注ぐという習慣は、今の私達が油をかけられたら、ただただびっくりという感じてでしょうか。でもユダヤや中東では、それほど驚くようなことではなかったようです。たとえば、来客へのもてなしとして、良い香りの油を注ぐということがあります。

またユダヤでは一つの儀式として、王様や祭司が選ばれるときにも油が注がれました。それは神様からの与えられた特別な祝福のしるしだったのです。イエス・キリストのキリストという言葉も、元々はユダヤ語のメシアから来ています。メシアは「油注がれた者」という意味の言葉です。油注がれた者は、神様に選ばれた特別な働きをする人、つまり救い主だと考えられたのです。

詩編の 133 篇にこの油が注がれる祝福をモチーフにした詩があります。この詩を読むと、ここで女性が油を注いだ理由がわかるような気がするのです。

見よ、兄弟が共に座っている。

なんという恵み、なんという喜び。

かぐわしい油が頭に注がれ、

ひげに滴り 衣の襟に垂れるアロンのひげに滴り

ヘルモンにおく露のように

シオンの山々に滴り落ちる。

シオンで、主は布告された 祝福と、とこしえの命を。

兄弟姉妹が共に座っている。そのことがどれだけ喜びで恵みであるか。その祝福された人々の様子を、油が滴る様子で表現しているのです。油が体にまとわりつき、その香りで満たされていくようす。油注がれた人だけではなく、その香りは部屋中を満たして、空間が満たされていくような様子です。その満ち溢れる香りの中に、神様の祝福を見ているのです。目に見えず、触れることの出来ない神様の祝福という出来事を、体で感じようとする、そんな儀式だったのかもしれない。

○神の国が来た

この女性は、特に高価な、強い香りのする油をイエス様に注ぎかけました。それは単なる来客へのもてなしではありません。そうではなく、「見よ兄弟が共に座っている、なんという恵み、なんという喜び」そんな光景が、目の前に広がっていることへの気付きではないでしょうか。彼女の中で、この食事の出来事が大きな喜びであり、恵みだった。そんな特別な思いの中で、彼女は大切なときのために取っておいた高価な油の壺を壊して、イエス様に注ぎかけたのです。

それは、この食事が重い皮膚病の人、シモンの家で行われた食事だからです。重い皮膚病は当時のユダヤではケガレた病とされていたのです。この病になると家族と一緒に生活することもできず、人に近づくこともできないのです。ケガレは移るからです。

私はこの女性というのは、病の人シモンをケアしていた人ではないかと思っています。ケアをするのは家族とは限りません。むしろ重い皮膚病は家族とくらすことも禁じられるのです。ですから近くに住んでいた人かもしれません。

重い皮膚病の人は、ケガレた人として扱われるので、外出して人に近づくこともできません。身の回りのことは自

分できて、買い物をしたりも必要です。そんなケアする人として、この人はシモンに関わっていたのです。そして、シモンにとっては、彼女だけが家の外の世界と繋がる命綱のようなものでした。

きっと彼女は、そんな風にシモンのケアをするなかで、シモンの病の痛みや苦しみを知っていったのではないのでしょうか。家族や社会から隔離されて生きなくてはいけない。それは病以上の辛さです。イエス様はなぜシモンの家で食事をしているのでしょうか。イエス様がシモンの話を聞きつけてやってきたのか。イエス様がシモンと出会うためにも、きっと彼女は何かしら関わっていると思うのです。彼女がイエス様を連れてきたのか、尋ねてきたイエス様を彼女がシモンに引き合わせたのだと思うのです。

そんなふうにして、彼女はシモンがイエス様の食事をする姿を見ているのです。シモンとイエス様が親しく話をし、食事をする姿をみて、彼女は本当に嬉しかったのです。大きな喜びだったのです。イエス様に注がれた香油は、そんな喜びの食事の席に捧げられた、祝福だったのです。なぜならこの日、シモンの家に救いが訪れたからです。この日、神の国が実現したのです。

○批判する人たち

でも、それを理解できない人たちがいました。それは、この様子を周りから見ている人たちです。彼らは「なんと無駄遣いだ」と、この女性をなじるのです。

この人達にはこの食事の価値が理解できません。彼らはシモンの痛みを理解しておらず、そのためにケアしていた女性ことも理解しません。イエス様がなぜそこに来たのかも分かっていないのです。そして、シモンをケガレた病の人としてしか見ていないのです。

きっとこの批判する人たちは、重い皮膚病を患ったシモンの家で食事をするのも、ちょっと嫌だったのかもしれない。でもイエス様がくるというから、ついてきたのではないのでしょうか。なんでこんなところで食事をするのかと思っていたら、女性が高価な香油を使ってしまった。それを見て、ここぞとばかりに女性を非難するのです。

もしこの香油を注いだのが女性ではなくて、立場のある男性だったら、彼らはここまで批判しなかったのではないのでしょうか。あとでヒソヒソと文句を言ったくらいだったでしょう。ここには、汚れた人への差別の視線と、女性への差別の視線が、両方含まれているように思うのです。

彼らの攻撃は収まりません。まるで自分たちの方が高価な香油をうまく使えるとばかりに、上から目線で語り始めます。香油を売れば300デナリオンになる。それを施せば多くの人が助かるというのです。

私達はこんな言葉をよく聞かされているのではないのでしょうか。そこで何が行われているのかの本質を理解せず、表面的な金額だけを見て、高い安いと言っているのです。効率が良いこと、コストが下がることが、もてはやされる時代です。でも、私は知っているのです。もっとコスパよく仕事しろ、そんな心無い言葉で苦しめられている人がいることを。人と人の関係を大切にしたり、誰かをケアしたり、ともに学ぼうとしたり、サポートしたり、そんな働きをしてきた人がずっと苦しめられてきたのです。これはとても、2000年前の出来事には見えません。まるで今の私達の世界のようです。

「するままにさせておきなさい。なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。」

イエス様はそんなお門違いの指摘をする人たちにはっきりと言うのです。彼女のしたことは、良いことなのだ。なぜなら彼女はシモンを大切にケアしてきたのであり、イエス様もそのような生き方をしてきたからです。そしてそんなシモンの所に、イエス様は来た。それをこの女性は祝福しているからです。

○記念として語り伝えられる

「はっきり言うておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

福音とは良い知らせという意味の言葉です。私たちはこんなに効率よくやっていけるんだ、そんなことは良い知らせではないのです。神様の良い知らせとは、一人の人が誰かと関わることができるということです。そして、その人の命を支えていく、大切にされていく、そんな関係の中に、イエス様がおられるとういことなのです。この女性はそんな良い知らせが実現していることを、心から実感していたのです。それは彼女自身がシモンと丁寧にに関わり、ケアしてきたからこそ気づけたことだったのではないのでしょうか。

そんな関わりの中で行われた彼女の油注ぎは、彼女の思いを超えて、イエス様の十字架と復活の備えとなっていきます。私達一人ひとりも、イエス様を信じるものとして、この出来事を大切に覚える者でありたいのです。

祈ります

<p>池田バプテスト教会 〒563-0027 池田市上池田 1-2-25 Tel 072-751-9853 礼拝 毎週日曜日 10:30-11:30</p>	<p>北豊中教会 〒560-0056 豊中市宮山町 3-19-33 Tel 06-6854-8038 礼拝 毎週日曜日 15:00-16:00</p>
<p>礼拝の様子は各教会のFBページにてライブ配信しています。一週間程度は録画を見ることができますので、御覧ください。</p>	